

2013年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	生物環境化学科						
科目名	公衆衛生学						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	3年後期		
必修・選択の別	選択必修						
担当者	神武洋二郎						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学の概念と重要性について説明できる。 ・疫学の目的とその方法論の概略について説明できる。 ・主要な感染症とその病原体、食品衛生の保持について説明できる。 ・生活習慣病の現状と発症要因について説明できる。 ・社会保障の概念と種類について説明できる。 						
日程と内容	9/16：導入講義（授業の進め方・成績評価法）、公衆衛生の概要と歴史 9/23：人口と保健統計-健康に関する各種統計- 9/30：疫学-疾病の発生要因・疫学調査法- 10/7：母子保健-概要と制度- 10/14：成人保健-メタボリックシンドローム・悪性新生物- 10/21：成人保健-心疾患・糖尿病- 10/28：高齢者保健-現況と制度- 11/2：中間まとめ 11/11：感染症-種類と予防-1 11/18：感染症-種類と予防-2 11/25：感染症-種類と予防-3 12/2：食品衛生-有害物質と食中毒 12/9：環境衛生-生活・地域・地球環境問題- 12/16：産業保健-職域の健康管理- 12/23：総合まとめ						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習	30%					
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学の概念と重要性について説明できる。達成した。 ・疫学の目的とその方法論の概略について説明できる。達成した。 ・主要な感染症とその病原体、食品衛生の保持について説明できる。達成した。 ・生活習慣病の現状と発症要因について説明できる。達成した。 ・社会保障の概念と種類について説明できる。未達成。 						
反省点	分かりやすい説明を心がけたが、自己学習意欲をそそる内容だったかは不明である。もう少し最新の知見を紹介する等の工夫が必要である。						
来年度の計画	予習・復習等の自己学習を促す工夫を、授業内で取り入れる。						
授業評価アンケートに対するコメント	科目的に、深く学ぶというよりも、広く知ることを達成目標に設定しているため、できるだけ平易な説明にしたため、分かりやすかったというコメントが多かった。						
履修登録者数	77名	定期試験 受験者数	77名	合格者数	75名	合格率	97%